The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「中級会話」授業報告 ： 会話指導の問題点およびその改善に向けて
Author(s)	日比, 伊奈穂
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2016, 14, p. 65-75
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56948
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「中級会話」授業報告
― 会話指導の問題点およびその改善に向けて ―

A Report on Intermediate Conversation Class:
Problems with Teaching Conversation and for Their Improvements

日比伊奈穂

【要旨】

2009年度より、春学期、秋学期ともに、日本語・日本文化研修留学生及びメイプルプログラムの留学生に対する「中級会話」の授業を担当してきた。本稿はその秋学期の授業報告である。

どちらのプログラムの学生も秋学期に合わせて来日するため、秋学期はいわゆる中級前半レベルを想定した授業を行っている。学習者が日常遭遇する場面における「依頼する」「誘う」といった会話表現を取り上げ、相手や場面に応じて適切な表現が使えるようになるよう指導している。

しかし、その指導が必ずしも学生に行き渡っているとは言えない。理解はしても実際の会話場面ではうまく表現できない学生もおり、それとは対称的に、言いたいことが相手に伝わるので、適切に表現することを疎かにしてしまう学生もいる。会話の指導にはフィードバックが欠かせないが、効果的にフィードバックを行うにはどうすることが必要だろうか。授業報告と併せ、会話指導の問題点についても考える。

1．はじめに

筆者は大阪大学日本語日本文化教育センター（以下「CJLC」とする）において2009年度より5年余りにわたり、日本語・日本文化研修留学生（以下「日研生」とする）及び短期留学日本語日本文化特別プログラム（メイプル・プログラム）の学生（以下「メイプル生」とする）への「中級会話」の授業を担当してきた[1)]。本稿はその授業報告である。

はじめにCJLC内での「中級会話」授業の位置づけ、および、受講する学生について簡単に触れておきたい。まず、授業についてであるが、「中級会話」の授業は選択日本語実習科目の一つである。選択日本語実習科目は「中級」と「上級」の2レベルに分かれており、各レベル、会話の他に「文法」「漢字」「読解」「作文」「聴解」の授業が設けられている。また、各学期同じ科目名の授業が複数用意されており、授業内容や目標が担当講師によって異なるため、学生はそれぞれの目的、レベルに合った授業を選択する。

次に、学生についてであるが、日研生は各国で日本語・日本文化を専攻している学生で、1年間の留学期間中、「研修コース」か「研究コース」のどちらかのコースに所属して日本の社会や文化を学ぶ学生である[2)]。日本語のレベルはほとんどの学生が上級レベルであり、中級レベルの学生は少数である。一方メイプル生は日本語・日本文化を専門に勉強している学生とは限らず、日本語能力を高めることや日本の文化や社会についての知識を得ることを目標に1年間学ぶ学生である[3)]。大半が上級レベルの日研生と異なり、中級から上級まで学生の日本語のレベルは幅広い。日研生、メイプル生とも9月末に来日し、秋学期（10月）より授業が開始される。

本稿では、まず、学生が来日してすぐの秋学期の授業について報告する。そして、そこから見えてきた会話の指導、特にフィードバックの問題点についても考察したい。

2．授業概要

2．1． 使用教材

初めにも述べたとおり、筆者は数年にわたって秋学期、春学期とも「中級会話」の授業を担当してきた。秋学期はこれから１年間日本で生活する上において必要となる、日常の会話表現を身に付けるための授業を行い、春学期は日常の場面でも必要となる物事を描写、説明する力をつけるための授業を行っている。どちらも日常の場面を想定しているのであるが、これは、日本語で話すことの基本を学んでほしいからである。学生たちのほとんどが各自の国で日本語を学び、授業以外で日本語を話す機会がほとんどなく来日する。そのため、読み書きの能力は優れているのに話すことは苦手でうまく表現できないという学生が多くみられる。何とか意思は伝えられても、短文を並べることしかできなかったり、あるいは、場面にそぐわない硬い表現を用いたりと、自然な表現で話しているとは言いがたい。

そこで、秋学期はテキストとして『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編』（1巻および２巻。以下、『日本語生中継』とする）を使用することにしている。秋学期の授業の目的は、日常生活で必要となる会話において、場面や人間関係に応じた表現で、また、望ましい談話展開で話せるようになることである。学生たちは１年間日本で生活し、様々な関係の人と会話をすることが必要となってくる。初級の文法を一通り学んだ学生なら、おそらく日常の場面で意思を伝えることは可能であろう。しかし、日本語では上下関係、親疎関係に応じて表現が使い分けられる。中級、上級レベルと日本語力が向上するにつれて、「適切に」表現することが会話の場面では期待される。また、談話展開の仕方も文化によって異なる場合がある。様々な場面で適切な会話運びができることは、表現の使い分けと同じように求められるため、会話の展開の仕方にも注目させている。こうしたことから、上記テキストで授業を進めることにした。

2．2． 受講生

2012年度から2014年度の秋学期に受講した学生の内訳は表１に示した通りである。受講生はメイプル生を中心に、日研生と大阪大学やその他の大学からの聴講生が数人受講している。受講する学生のレベルは、メイプル生に関する限り、中級下位クラスから上級の上位クラスの学

表１　秋学期受講生の内訳[4)]

		2012年度	2013年度	2014年度
日研生		**3**	**5**	**8**
メイプル生		**22**	**11**	**27**
内訳	MA1	2	2	5
	MA2	1	1	3
	MA3	0	1	4
	MA4	6	3	5
	MM1	6	3	5
	MM2	7	1	5
その他		**3**	**5**	**1**
合計		**28**	**21**	**36**

（単位：人）

生まで幅広い。多様なレベルの学生が受講しているのは、先にも述べたとおり、これまで日本語を話す機会が少なく話すことが苦手な学生や、来日直後ということもあって自然な会話表現を身に付けたいと考える学生が多いためではないかと思われる。

2．3． 授業内容

2012年度から2014年度の秋学期に扱ったトピックは表のとおりである。学生の人数やレベル、ニーズによって、授業で扱うトピックや順序は変えている。

表2　授業トピック一覧[5)]

トピック	機能	年度
貸してもらう	貸してもらうように頼む 貸すのを断る	2013　2014
予定を変更する	予定の変更を頼む できなくなった理由を説明する	2012　2013　2014
レストランで	質問する 相手の間違いを指摘する	2013*
旅行の感想	感想を述べる うらやむ	2012
買い物	人に何かを勧める 相手の意見を聞いて何にするか決める 勧めを断る	2012　2013　2014
ほめられて	ほめる ほめに応える	2012
交通手段	どちらがいいかアドバイスを求める どちらがいいかアドバイスをする 条件を述べる	2013　2014*
ゆずります	申し出る 相手の希望をたずねる	2013　2014
電話をかける	用件を伝える 伝言をする	2014
趣味	誘う 誘いに興味を示す 誘いにあまり興味がないことを示す	2012

＊は履修登録期間に扱ったテーマであることを示す

2．4． 授業展開

授業は各トピック2回に分けて行っている。1回目はトピックに関連する語彙や表現の導入を行う。2回目は機能別の表現を導入し、ロールプレイによる口頭練習を中心に進める。以下、授業の流れとその内容について述べる。

2．4．1． 1回目の授業

（1） ウォーミングアップ

トピックに関する話題で話をしてもらう。例えば「貸してもらう」の場合、最近の貸し借り

の経験、貸し借りに関して困った経験などを話題にしている。また「買い物」がトピックの時は、日本で買い物をしたとき、店員にどのような質問をしたか、また、上手く尋ねられなくて困った経験などはないかを尋ねている。

（2） ロールプレイ

簡単なロールプレイを行う。この段階では表現の導入などはせず、学習者が持っている日本語力だけで会話をさせる。例えば「貸してもらう」がテーマの時は、「友人に電子辞書／自転車を借りる」「先生に本を借りる」という場面設定のみ提示し、会話の展開の仕方等、細かな指示はしない。ここでのロールプレイの目的は、自分の実力を知ることにある。ロールプレイをすることによって、トピックや機能に関する自らの語彙力・表現力に気づき、さらに多様な表現を学ぶための各自のスタート地点を知ることが目的である。そのため、ロールプレイ後のフィードバックでは初級レベルの表現の確認や間違いの指摘程度にとどめている。

（3） 語彙の学習

テキスト『日本語生中継』や関連教材『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編　教室活動のヒント＆タスク』（以下『教室活動のヒント＆タスク』とする）を使ってトピックに関連する語彙を学習する（資料1参照）。中級前半の学習者はまだまだ語彙が少なく、そのせいで表現できないということも多い。特に「買い物」がトピックの時は、店員に質問する時に使われる語彙や表現、「交通手段」の場合は乗り物に関する語彙の学習が必須である。2回目の授業で会話練習をスムーズに行うためにも、その前作業として語彙の学習を取り入れている。

（4） 会話の聞き取り

2回目の授業への導入として、会話の聞き取りを行う。聞き取りに使用する会話は、『日本語生中継』に「聞き取り練習」として用意されている人間関係や状況設定が異なる4つの会話である。この会話の聞き取りの目的は、相手や場面による表現の違いを理解すること、重要表現の確認、そして会話の流れを学習することである。スクリプトを配布し、会話を聞いた後、スクリプトで確認しながら、親疎関係や場面によって異なる表現、話の流れの違いを確認する。また、重要表現は特に注目させるために、ディクテーションを行っている（資料2参照）。

また、この会話の聞き取りは2回目の授業での活動の中心となるロールプレイへの動機づけの意味合いもある。『日本語生中継』の会話は、使われている表現が自然な会話表現であり、話す速さもコントロールされていない自然なスピードである。このような会話を聞くことにより、この授業で求められている「自然な会話」がどのようなものかを知り、各自の目標にしてほしいと考えている。そのため、自然なスピードの会話を理解するのが難しい学生も少なくはないが、この会話の聞き取りを取り入れている。

2．4．2． 2回目の授業

2回目の授業では、まず初めに、重要表現の導入を行う。その後、導入した表現を使っての短い会話練習を行い、最後に、学習した表現を使い分け、会話の流れに注意しながらロールプレイをして総括する。

（1） 重要表現の導入

表現は機能別に、親しい人に使う表現と目上・親しくない人に対して使う表現を分け、さらにそれぞれ直接的な表現から間接的（丁寧）な表現へと順に提示している。また、基本的な表現（最低限使えるようになってほしい表現）と応用的な表現（基本的な表現が使える人が目指す表現）の別も示している。例として、トピック「貸してもらう」の場合を取り上げて説明したい。

トピック「貸してもらう」の表現としては、「貸してもらうように頼む」「前置き表現」「貸すのを承諾する」「貸すのを断る」を項目として立てている。テキストでは「貸してもらうように頼む」「貸すのを断る」の二つが取り上げられているが、本授業では上記4項目をそれぞれの表現としてまとめて提示している[6)]。

例えば、「貸してもらうように頼む」表現であるが、初めに「貸す」「借りる」を使った表現を確認している。これは１回目の授業のロールプレイの後に一度まとめて提示しているため、ここでは復習ということになる。「貸す」「借りる」は初級で学習しており、意味はよく理解しているが、依頼や許可の表現とともに使われる場合、正しく使えない学生が多い。例えば、自分が借りる場合、「貸す」は「貸してくれる？」「貸してもらえませんか」などとは言えるが、「貸してもいいですか」とは言えない。逆に「借りる」を使って言う場合、「借りてもいいですか」とは言えるが、「借りてもらえませんか」とは言えない。しかし、ロールプレイをしているとこのような間違いが度々見られ、また、学生自身から確認を求めてくることも多い。そのため、「貸してもらいたい」「借りてもいい」というように、基本の表現を整理することが必要となる。

このように初級レベルの基本的な表現を確認した後、相手との関係（親しい人か、目上・親しくない人か）によって分けた表現を導入する。「貸してもらうように頼む」表現として示しているのは次のものである。

【貸してもらうように頼む】

＜親しい人に＞

貸して。　　直接的

貸してくれる？／貸してくれない？

貸してほしいんだけど。／借りたいんだけど。

貸してもらえる？／貸してもらえない？

貸してもらいたいんだけど。

借りてもいい（かな）。

貸してもらってもいい（かな）？

借りられる（かな）？　　間接的（丁寧）

＜目上・親しくない人に＞

貸してください。　　直接的

貸してもらえますか？／貸してもらえませんか？

貸していただけますか？／貸していただけませんか？

貸してもらいたいんですが。
貸していただきたいんですが。／お借りしたいんですが。
お借りしてもよろしいですか。
お借りしてもよろしいでしょうか。
お借りすることはできないでしょうか。
お借りするわけにはいかないでしょうか。

↓ 間接的（丁寧）

※二重線（＝）は基本的な表現、波線（～）は応用的な表現であることを示す。

中級前半の学生に導入する表現としては数が多すぎるかもしれない。しかし、2.1.で示した通り、本授業の受講生は各年20～30人強と人数が多いため、レベルにバラつきがある。そのため、基本と応用の別を示し、会話が特に苦手な学生にはまず基本表現を覚えて使えるようになるよう指導し、基本表現が使えている学生にはその他の表現、さらには応用表現まで多様な表現が使えるようになることを目標にさせている。

（2） 練習

テキストには重要表現の項目ごとに練習問題が用意されている。授業での練習はこれを使用している。「貸してもらうように頼む」の練習は次のとおりである[7)]。

次のような場合に、あなたならどう言いますか。
① 〈友人に〉 財布にお金が200円しかない
② 〈友人に〉 先日買ったDVDを見せてほしい
③ 〈同僚に〉 出張に持って行くノートパソコンがない
④ 〈上司に〉 釣りに持って行くクーラーボックスがない

この練習は、「貸すのを承諾する」表現を導入してから行っている。クラスの人数が少ない場合は各学生に自分ならなんというか答えてもらうこともできるが、多人数クラスの場合はそれができない。そのため、返答に迷うことが少ない承諾の表現を導入し、ペアで「依頼」→「承諾」という短い会話練習をしてもらう。その後、数組のペアに発表してもらい、表現の確認を行う。

（3） ロールプレイ

重要表現の項目ごとに導入、練習を行った後、総仕上げとしてロールプレイでまとまった会話の練習を4、5問行う。このロールプレイも基本的には『日本語生中継』及び『教室活動のヒント＆タスク』に用意されているものを使用しているが、時期や学生の実情に合わせて多少内容を変えている。「貸してもらう」でのロールプレイの問題を以下に示す[8)]。

＜カジュアルな場面＞
【1】週末、寮でパーティーをします。必要な物で、あなたが持っていない物を友達に借りてください。

【2】自動販売機を使いたいのですが、細かいお金がありません。友達に借りてください。
【3】昼休みに宿題をしたいと思っています。友達に電子辞書を借りてください。
【4】スマートフォンの充電器をなくしてしまいました。同じ機種のスマートフォンを使っている寮の友達に借りてください。

＜フォーマルな場面＞
【1】上司のうちへ遊びに行きました。トイレを使わせてもらってください。
【2】授業で面白いDVDを見ました。先生にそのDVDが借りられるかどうか聞いてください。
【3】会社の先輩のうちに遊びに行って帰ろうとした頃、急に雨が降ってきました。先輩に傘を借りてください。
【4】先生の研究室にある本で読みたい本があります。先生に頼んで借りてください。

ロールプレイの際、どのような会話のやり取りをするかは学生に任せている。ただし、問題ごとにできるだけ表現を変えること、返答も承諾、断りなど、学習した項目を一度は取り入れること、さらに、会話の始まりから終わりまでの流れにも気を配ることという指示はしている。

ロールプレイはペアでの練習後、数組のペアに発表してもらう。発表してもらった会話をもとに、表現や会話の流れを再確認している。

2.5. 評価方法

学期末にロールプレイによる試験を行っている。授業で扱ったすべてのトピックから出題し、事前にロールプレイの内容を知らせているが、どのトピックをすることになるかは当日決定する。その意図は、授業で学習した表現、会話の注意点などを総復習し、今後の現実の場面で生かしてもらうためである。評価は、授業で扱った表現を取り入れているかどうか、丁寧さのレベルや会話の流れに注意しているかどうかという点を重視している。

3. 問題点と今後の課題

これまで5年余り「中級会話」の授業を担当してきたわけであるが、学生への指導の難しさを毎学期感じている。秋学期は2.1.で見たとおり、1クラス20～30人強の比較的規模の大きなクラスであったが、1クラス10人前後であった春学期のクラスでも、学生の口頭表現能力には差が見られる。なかなか言葉が出てこず、意思を表現することが難しい学生もいれば、十分ではないにしろ、意思を表現することがそれほど問題なくできる学生もいる。さらに、この口頭表現能力の差は必ずしも日本語能力の差と一致していない。MMの学生の方がMAの学生よりも流暢に話せるということもある。

このような差は、各学生の心理的要因や学習ストラテジーの違いによるところが大きいと考えられる。教師は学生の発話の間違いだけでなく、会話能力向上の妨げとなっている問題点を見抜いてフィードバックしていく必要がある。おそらく、会話の授業では他の科目以上に、学習者一人一人への個別のフィードバックが欠かせないと言えるだろう。しかし、これまでの授

業でこのようなフィードバックをしても、それが十分に学生たちには届いていない。効果的なフィードバック法が見出せないでいるのが現状である。

これまでの授業では口頭練習中などに学生たちの会話を聞き、その場でフィードバックを行ってきた。しかし、例えば、表現能力が高くない学生にまずは基本的な表現、基本的な展開で会話を進めるよう指導しても、相変わらず練習であれもこれもと挑戦し、スムーズな会話の展開がいつまでたってもできないということが見られる。また、口頭表現能力のある学生の場合は、既知の表現や談話展開からの発展が見られず、学習内容が生かされないということがある。

特に難しいのが口頭表現能力の高い学生へのフィードバックである。口頭表現能力が高い学生に見られる傾向であるが、コミュニケーション上、意思疎通に問題がないため現状に満足してしまっているのか、表現の間違いや適切さに対する反応が鈍い。彼らは重要表現の練習もロールプレイもすらすらとこなす。しかし、新しく学んだ表現を会話に取り入れたり、場面によって表現を使い分けたりということが少ない。また、表現の間違いを指摘したり、より適切な表現を提示したりしても、それへの対応が消極的である。結局、最終試験でもフィードバックが生かされておらず、自己流の会話に終わってしまう。

こうしたことから考えられるのは、フィードバックが生かされるには、学習者の側にフィードバックを受け入れる態勢ができている必要があるのではないかということである。そのための方法として、学習者自身に自らのロールプレイを評価させるという方法が考えられる。課題がこなせたから良しとするのではなく、上手くできたところ、できなかったところ、また、改善の余地があるところなどを振り返ることは、今後のロールプレイへの動機につながるのではないだろうか。

ボイクマン（2009）は学習者のモニター能力[9)]を育成することを目的として、ロールプレイ後に学習者自身にフィードバックをさせ、その後教師など他者からのフィードバックを行うという活動の報告をしている。このような方法は、学習者が内省をすることによって、他者からのフィードバックを受け入れる態勢が作られると考えられる。そして、自分自身のフィードバックと他者からのフィードバックを比較することにより、より広い観点から自らの発話を判断することにもつながるだろう。

ボイクマンは口頭でのフィードバックを行っているが、教師一人で20人以上の学生一人一人に口頭でフィードバックする、あるいはさせることは困難である。多人数クラスの場合、毎回すべての学生にフィードバックをすることは難しいため、まずは学習者自身が自らの発話を振り返る活動を取り入れることが必要ではないかと考えている。例えば、振り返りシートなどを作成し、学習者自身が自らの口頭表現力やその成長を視覚的にとらえることができるものなどが考えられる。具体的な活動内容としては、今後の課題である。

4．おわりに

「会話」は、第２言語の学習者が最も習得したいと思う能力であると同時に、最も難しいと感じる技能でもある（許、鶴町2009、内丸2012）。会話は発話したら消えてしまうものである。普通は記録として残らない。だから、自分の発話が正しいのかどうか、判断することが難しい。もし間違っていたら相手は理解できないため、すぐに反応が返ってきて気づくことができる。しかし、相手に理解されたからといって必ずしも正しく表現できたとは限らない。本当は適切

な表現でなかったとしても、いちいち間違いを指摘されることがないため、気づくことができないだけかもしれない。こうしたことから、自らの会話を少なくとも良い方には評価することができず、学習者は「会話が苦手」と感じてしまうのかもしれない。

会話の力を伸ばすにはどうしたらよいのだろうか。学習者には常々、間違いを恐れずに新しい言葉や表現を積極的に使って話すように言っている。学習した表現を積極的に使ってみようとする学生、語彙を知らなくてもあれこれ表現して言いたいことを伝えようとする学生は着実に会話の力をつけていく。とはいえ、大学生の年齢になった大半の学習者にとっては、間違いを恐れないということはそう簡単なことではないだろう。なかなか言葉が出てこない学生も、いつも決まった表現しか使えない学生も、心のどこかで間違いを恐れ、次の段階に進めないでいるのかもしれない。

会話の授業の改善には活動の工夫に加え、こうした学習者の能力向上への負の要因を分析することも必要である。今後はそうした分析も含め、これまでの授業で見えてきた指導の問題点を改善するための様々な試みを行い、後日また報告としてまとめたい。

注

1）2013年度春学期のみ「上級会話」を担当。

2）「研修コース」は「日本語を活用して社会で活躍することを希望する学生向けのコース」で、「研究コース」は「日本語・日本文化の研究に従事することを希望する学生向けのコース」である。（大阪大学日本語日本文化教育センターのサイト内、「日本語・日本文化研修プログラム（詳細）」より。http://cjlc.osaka-u.ac.jp/ja/wp-content/uploads/2013/12/J-risyuannaiJ.pdf　2015/11/2閲覧）

3）「学生がそれぞれの自分の目標に合わせて、日本語能力を高めること、日本の文化や社会についての知識を得ること、自国の言語・文化・社会と比較対照させながら、日本をいろんな角度から理解できる人材を養成することを目標としています。」（大阪大学日本語日本文化教育センターのサイトより。http://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/japanese/program/m/　2015/11/2閲覧）。

4）メイプル生のクラス内訳の「MM」は中級クラス、「MA」は上級クラスである。

5）トピック、機能は『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編１・２』に準じる。

6）ただし、『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編１　教室活動のヒント＆タスク』には、本授業で言う「前置き表現」「貸すのを承諾する」がそれぞれ「依頼の話を始めるときの前置き」「OKの場合」としてまとめられている。

7）『聞いて覚える話し方　日本語生中継　初中級編１』p.12より。

8）『聞いて覚える話し方　日本語生中継　初中級編１』p.15、『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編１　教室活動のヒント＆タスク』p.14を基に作成。

9）ボイクマン（2009）では、「モニター」とは横山（2008）に基づき、「自らの言語表現が適切な言語使用から逸脱していないかどうかチェックすることである」と説明されている。横山（2008）ではモニターする際の観点は言語知識であるが、ボイクマンは会話の授業という点から、「スピーチスタイルの選択」「言語表現の選択」「談話構成の選択」など、言語社会学的な知識や談話に関する知識にまで広げている。

参考文献

内丸裕佳子（2012）「中級日本語学習者が望む学習とは何か―高等教育機関におけるアンケート調査―」『大学教育研究紀要』第８号

木田真理、小玉安恵、長坂水晶（2007）『国際交流基金日本語教授法シリーズ６　話すことを教える』ひつじ書房

清水崇文（2013）『みがけ！コミュニケーションスキル　中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』スリーエーネットワーク

許明子・鶴町佳子（2009）「日本語学習者の中級レベル観―中級文法クラスを受講した学生の意識調査を中心に―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第24号

ボイクマン総子（2009）「モニター能力を育成するための教室活動とフィードバック―中級前期の会話授業の実践―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第24号

ボイクマン総子・宮谷敦美・小室リー郁子（2006）『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編１』くろしお出版

ボイクマン総子・小室リー郁子・宮谷敦美（2006）『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編１　教室活動のヒント＆タスク』くろしお出版

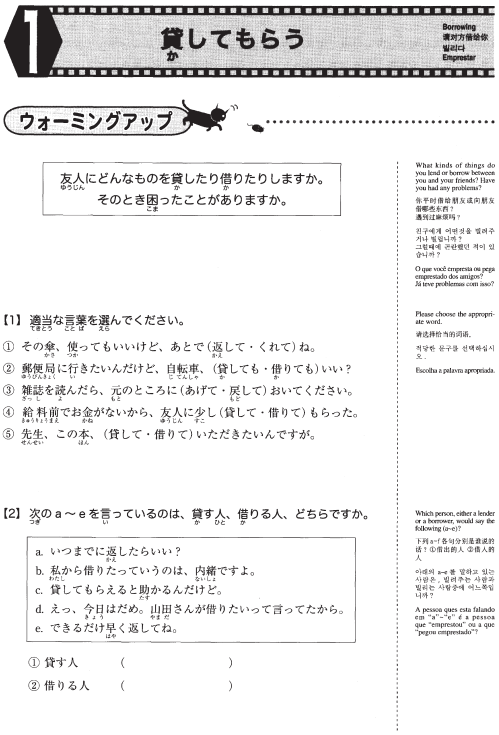
ボイクマン総子・宮谷敦美・小室リー郁子（2006）『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編２』くろしお出版

ボイクマン総子・小室リー郁子・宮谷敦美（2007）『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編２　教室活動のヒント＆タスク』くろしお出版

横山紀子（2008）『国際交流基金日本語教授法シリーズ５　聞くことを教える』ひつじ書房

（ひび　いなほ　本センター非常勤講師）

【資料１】 語彙の学習教材例



1 貸してもらう

Borrowing
请对方借给你
빌리다
Emprestar

ウォーミングアップ

友人にどんなものを貸したり借りたりしますか。
そのとき困ったことがありますか。

What kinds of things do you lend or borrow between you and your friends? Have you had any problems?

你平时借给朋友或向朋友借哪些东西？
遇到过麻烦吗？

친구에게 어떤 것을 빌려주거나 빌립니까？
그럴 때에 곤란했던 적이 있습니까？

O que você empresta ou pega emprestado dos amigos?
Já teve problemas com isso?

【1】 適当な言葉を選んでください。

① その傘、使ってもいいけど、あとで（返して・くれて）ね。
② 郵便局に行きたいんだけど、自転車、（貸しても・借りても）いい？
③ 雑誌を読んだら、元のところに（あげて・戻して）おいてください。
④ 給料前でお金がないから、友人に少し（貸して・借りて）もらった。
⑤ 先生、この本、（貸して・借りて）いただきたいんですが。

Please choose the appropriate word.

请选择恰当的词语。

적당한 문구를 선택하십시오.

Escolha a palavra apropriada.

【2】 次のａ～ｅを言っているのは、貸す人、借りる人、どちらですか。

a. いつまでに返したらいい？
b. 私から借りたっていうのは、内緒ですよ。
c. 貸してもらえると助かるんだけど。
d. えっ、今日はだめ。山田さんが借りたいって言ってたから。
e. できるだけ早く返してね。

① 貸す人　（　　）
② 借りる人　（　　）

Which person, either a lender or a borrower, would say the following (a-e)?

下列a-e各句分别是谁说的话？①借出的人 ②借入的人

아래의 a-e를 말하고 있는 사람은, 빌려주는 사람과 빌리는 사람중에 어느쪽입니까？

A pessoa que está falando em "a"-"e" é a pessoa que "empresta" ou a que "pegou emprestado"?

（『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編１』p.8より）

第1課

ウォーミングアップ　練　習

■ 何と言いますか。

① ○○のCD、持ってたよね。ちょっと…　あなた　友人

② ○○の本なんですが…　あなた　先生

③ コンビニまで行くんだけど、食…　あなた　友人

④ お借りした本、どの本棚に…　あなた　先生

■ 適当な言葉を選びましょう。

① 私は昨日英語のDVDを買った。友達がそのDVDを 貸してほしい / 借りてほしい / 返してほしい と言ったので、

私は友達に 貸して / 借りて / 返して あげた。

② 友達から借りたDVDを早く 返そう / 貸そう / 戻そう と思ったけれど、友達に会うチャンスがなくて、

なかなか 返せない。 / 貸せない。 / 戻せない。

③ 誕生日に、姉は私にかばんを あげた。 / くれた。 / もらった。 とても大切にしているので、そのかばんは誰にも

借りたくない。
もらいたくない。
貸したくない。

④ ルームメイトの山本さんは風邪で学校を休んでいるので、先生は「山本さんに宿題を

渡して ください」と私に頼んだ。
貸して
あげて

（『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編１　教室活動のヒント＆タスク』p.14より）

【資料２】 会話の聞き取り教材例

◆第１課◆

第１課　貸してもらう

【聞き取り練習】

1-2

①鈴木：あー、はらへった。めし、食いに行こっか。
木下：うん。…あれ？
鈴木：ん？
木下：うわー。やっべー。
鈴木：どうかした？
木下：うん。財布、忘れてきたみたい。
鈴木：え？　でも、どうやって大学まで来たの？
木下：あー、定期あるから。
鈴木：あっ、そっか。
木下：(　　)昼ごはん買うお金ないから。1000円あれば十分だし。
鈴木：(　　)バイト代入るの、来週でさ。(　　)
木下：そっか。じゃ、いいよ。誰か他の人に頼んでみるよ。
鈴木：うん、(　　)

1-3

②妹：お兄ちゃん。
兄：ん？
妹：お兄ちゃん、スターウォーズのDVD、全部、持ってたよね。
兄：うん、持ってるけど。
妹：友達が、(　　)
兄：うーん、いいけど。でも、(　　)
妹：いつごろならいいの？
兄：あー、そうだなー。昨日貸したばかりだから、来週か再来週までは返ってこないと思うよ。
妹：じゃ、返ってきたら、教えてくれる？
兄：うん、わかった。

1-4

③高木：あの、山田さん、(　　)
山田：どうしたんですか。
高木：だめだったらいいんですけど、山田さん、黒のハンドバッグ持ってますよね。
山田：黒の…
高木：あの、ほら、持つところがパールになっているバッグ。
山田：ああ、あれ。
高木：あの、友人の結婚式があって、私、そういうところに持っていけるバッグ、持ってないんですよ。で、(　　)

●スクリプト●

◆スクリプト◆

山田：次の週末？
高木：ええ。ずっと仕事が忙しかったから、買いに行く時間がなくて。
山田：あ、そう…。
高木：あの、でも、だめならいいんです。今日か明日、仕事早めに終わって、買いに行くんで。
山田：でも、なかなか時間ないですよね。今、一番忙しいときだから。
高木：ええ。
山田：あれでよかったら、どうぞ。
高木：いいですか。うれしい。よかったー。月曜日にはお返ししますね。
山田：じゃあ、明日会社に持ってきますね。
高木：(　　)

1-5

④中田：吉本さん。
吉本：ん？
中田：あの、吉本さんのパソコンって、ノートパソコンでしたよね。
吉本：うん、そうだけど。
中田：そうでしたよね。来週の月曜日、新入生勧誘のためのイベントがありますよね。
吉本：あ、そうだったね。
中田：で、僕、宣伝のために、パソコンでスライド作ったんですけど。
吉本：へえ、おもしろそうね。
中田：ええ。でも、僕の、古いんで、でっかいんですよ。
吉本：あ、そうなの。
中田：(　　)
吉本：うん、いいんだけど。月曜日締め切りのレポートがあるのよね。で、ぎりぎりまで使うと思うから…。月曜の朝には、できあがってると思うんだけど。どうしようかな。
中田：じゃ、大丈夫っすよ。イベント３時からなんで。
吉本：じゃあ、月曜日に学校に持ってくるね。
中田：よかったー。ありがとうございます。
吉本：じゃ、お昼に、学校の食堂で待ち合わせる？
中田：じゃ、12時半前には、食堂の前にいますんで。
吉本：ん、わかった。
中田：(　　)

（『聞いて覚える話し方　日本語生中継・初中級編１』別冊pp.1-2を一部改変）